

# マクロ経済の軸は新興国から先進国に戻る

三菱UFJモルガン・スタンレー証券チーフエコノミスト 佐治 信行

- \*1997年が日本の技術優位の転換点
- \*米国ホンダの貿易収支黒字化の意味
- \*先端技術を非公開にする米国
- \*オレンジ・カウンティと夕張市の違い
- \*中国が抱える2016年の爆弾
- \*切り札は大幅な元安か
- \*人件費の安さ以外に強みがない中国
- \*再びヒト、モノ、カネが米国に集まる
- \*新興国の足かせとは何か
- \*外国の人や企業が来なくなる規制緩和



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は、三菱UFJモルガン・スタンレー証券の佐治さんにおいでいただきました。

先ほど伺いましたら2000年ごろに一度こへおいでいただいているとので約14年ぶりでございますが、日本興業銀行から、みずほ、三菱へ移られて、マクロを担当してこれ、現在もたいへん人気のあるエコノミストでございます。私などがそういうことを言うと失礼かもしれませんが、特に見る視点が、当たり前のこととを当たり前言うエコノミストが多いなかで、佐治さんは違います。今日も目からウロコといったような斬新な見方を教えていただけるのではないかと思います。

佐治 信行  
それでは佐治さん、よろしくお願いいたします。

す。（拍手）

佐治 ご紹介いただきました三菱モルガン・スタンレー証券の佐治でございます。

1時間ちよつといただいて、私が考える日本経済、さらには世界経済についての課題というようなところをテーマにお話ししたいと思えます。まず最初に、最近、個人の経済データ、またいろいろな統計を見る中で、いちばんの直近で驚いたことを紹介させていただけようかと思っております。それはお隣の国の韓国です。サムスン、現代、LGなどがありますが、韓国への入国ビザでE4というビザがあります。これは理工系技術指導者の外国人に与えられる、長期滞在が許されるというビザであります。韓国はこのビザを一つのツール、武器として、海外